

第5次基本計画 現状と課題・施策展開項目（一覧表）

政策分野	目指すまちの姿	施策	現状と課題	施策の展開
地域経済	強い経済基盤と持続可能な産業がある	(1)ものづくり産業の強化	・社会構造の変化やライフスタイルの多様化により、様々な価値観が生まれ、市場ニーズへの対応が難しくなっています。持続可能な産業の発展には、各企業において新技術や新製品の開発が必要です。	新事業展開の促進
			・本市の地場産業・伝統産業は、近年、売上が減少傾向にあることに加え、人口減少に伴う市場規模の縮小も予測されており、各企業における新たな販路開拓が必要です。	国内外への販路拡大
			・高岡銅器、高岡漆器、越中福岡の菅笠などの伝統産業は、事業者数・従事者数などが減少傾向にあり、後継者人材の確保と伝統技術の継承が求められています。	伝統産業の後継者育成
		(2)産業基盤の整備・企業立地の推進	・企業を取り巻く社会経済情勢の急速な変化に対応し、企業活動の活性化を図るため、地域産業の高度化と新たな成長分野の創出といった産業構造の高度化・多角化に取り組む必要があります。また、産業用地の確保や周辺インフラの整備など、企業活動を活発化させる環境整備が求められています。	戦略的な企業誘致・立地の推進
			・中小・小規模企業は国際情勢の変化や災害対応などによる影響を受けやすい傾向にあります。中小・小規模企業の安定した経営基盤を確保するため、円滑な資金供給を支える取組みが必要です。	中小・小規模企業向け金融支援
		(3)商業・サービス業の振興	・物価高騰や人手不足により店舗経営は厳しい状況にあります。市場ニーズの変化に柔軟に対応し、個店それぞれの魅力を高めていくためには、デジタル技術の活用による業務効率化や情報発信など、経営強化を図ることが必要です。	個店の経営強化の推進
			・開業支援事業の充実により、中心市街地を中心とした新規開業件数は順調に推移しています。商業活力をさらに高めるため、消費者の来街と購買を定着させ、地域経済の好循環による持続的な賑わい創出へとつなげていく必要があります。	持続的な賑わいづくりの推進
			・店主の高齢化や後継者不足、商店街組合員数の減少により中心商店街等の衰退が懸念されています。魅力があり賑わいのあるまちづくりを推進するため、多様な担い手の参画を促進し、まちの課題解決や将来のあり方を自発的に検討する取組みへの支援が必要です。	多様な担い手の参画促進
		(4)持続可能な農林水産業の構築	・本市の農業は、水田を活用した稲作中心の構造となっています。米の需給の見通しが不透明である中であっても、農業を持続可能なものとするため、農業生産基盤の強化に取り組むとともに、水稻と麦・大豆や園芸作物等を組み合わせた作物の生産に取り組んでいく必要があります。	持続的な水田活用の推進
			・本市の畜産業、水産業、林業は小規模事業者が多く、担い手不足が深刻化しています。良好な生産環境づくり、適切な森林経営管理に努め、持続的かつ安定的な経営基盤を構築していく必要があります。	畜産業・水産業・林業の振興
			・本市の農産物は、米以外の作物の生産量は少なく、市民が高岡産農産物に触れる機会もまだ少ない状況にあります。農業者の所得安定と生産意欲の向上を図るため、高岡産農産物のPR・販売促進といった高付加価値化に取り組むとともに、学校給食への高岡産農産物の活用にも努め、地域で生産したものを地域で消費する取り組みを進めていく必要があります。	高岡産農産物の消費拡大
			・中山間地域は、人口減少や高齢化が進んでおり、農産物の生産条件も地形的に不利な面も多いことから、地域ならではの特性を生かす等、持続的な農業振興を図っていく必要があります。	中山間地域の振興
	魅力的な仕事と安心して働ける環境がある	(1)新産業創出・経営力の強化	・魅力的な仕事の不足が一因となり、都市部へ人が流出し、地場の雇用や地域経済に影響を及ぼしています。若年層や女性の仕事の選択肢を広げるため、新産業の創出が求められています。	新産業創出の推進
			・既存産業の成長鈍化により、多様なニーズに応える魅力的な仕事や安心して働ける環境が不足しています。新たな価値と多様な働き方を生み出し、仕事の選択肢を広げるため、起業・創業に挑戦できる環境の整備が必要です。	起業・創業に挑戦できる環境の整備
			・脱炭素社会への移行など産業構造が大きな変革期にあります。持続可能な地域社会を構築するためには、本市の基幹産業であるアルミ産業をはじめとした循環経済（サーキュラーエコノミー）の構築など、新たな地域産業の創出に向けた多様な連携が必要です。	産学官金民連携による循環経済（サーキュラーエコノミー）の推進
		(2)働きやすい環境づくりの推進	仕事と家庭生活等との両立や個々の事情に応じた柔軟な働き方など、働く人達のニーズは多様化しています。年次有給休暇等の取得促進やフレックスタイム等の柔軟な勤務形態への対応など、ワーク・ライフ・バランスの実現を図り、誰もが自分らしく活躍できる環境を整備することが重要です。	働きやすい労働環境の充実
			・若年層の雇用は、全年齢層を上回る失業率や高い早期離職率など、厳しい局面が続いています。約61万人の無業者が存在する一方で、企業の採用難は深刻化しており、特に若い女性の転出超過が地域の労働力不足と人口減少を加速させています。今後は、若者や女性に選ばれる魅力的な就業環境を整え、地域への定着を強力に促していくことが不可欠です。	若者が働きやすい環境の充実
			・有効求人倍率は依然高水準で推移し、求職者優位の状況が続いています。また、インターンシップなどを通じた早期接触や、求職者が企業を選ぶ傾向が強まるなど、人材獲得競争が激化しており、企業の人材確保・人材採用力の強化が必要とされています。	人材確保対策の推進
			・少子高齢化の進行に伴い生産年齢人口が減少する中、地域経済の振興を図るためには、インクルーシブな視点での幅広い労働力の確保が必要です。年齢・性別・障害・国籍にかかわらず、すべての人が、能力や特性に応じて安心して活躍できるよう、障がいのある方に対する合理的配慮の普及など、就労環境の整備を進めることが重要です。	多様な人材が活躍できる労働環境の充実
		(3)中心市街地のにぎわい創出	・駅前東地区でのマンション開発により、統計開始以来初の社会増を達成するなど明るい兆しが見えてきているところですが、賑わいへの波及に課題が残る状況です。今後は、ハードからソフト整備へ軸足を移し、持続可能な都市機能の深化と、エリアの経営強化による実効性のある賑わいづくりが必要です。	街のにぎわい創出
			・中心市街地では、開業支援事業を充実してきたことにより新規開業件数は順調に推移していますが、昨今の物価高騰や人件費上昇は民間投資の障壁となっています。リノベーションを通じた既存ストックの活用や、民間事業者の自立的な活動を促すことが必要です。	起業・創業支援の充実強化
			・百貨店撤退後の御旅屋セリオにおいては、公共的機能の導入やテナント誘致を進めてきました。引き続き、多世代が交流する「中心市街地の中核拠点」として充実を図り、中心市街地全体に人が流れるよう取り組む必要があります。	多世代が交流する中核拠点の整備
			・中心市街地内のマンションやアパートにはファミリー層の流入が見られます。安心して子育てできる環境整備や公共交通ネットワークと連携した生活利便機能の向上により、居住人口の維持・向上に努める必要があります。	まちなか居住の推進
		(4)田園エリアの振興	・本市農業の担い手は、高齢化や後継者不足に直面していることから、農地の維持管理が困難になり、荒廃農地が増加する懸念があります。農地の集積・集約化や、効率化・省力化、コスト削減等の取組みを進め、次代を担う意欲ある担い手の確保・育成を図る必要があります。	担い手の確保・育成
			・市民の環境への関心が高まっている中、農業を持続可能なものとするため、農業における環境負荷低減の意識向上を図ることが求められています。	環境にやさしい農業の推進
			・本市では、イノシシ等による農作物被害が大きな割合を占めるほか、クマによる市民生活が脅かされる危険性が高まっています。農作物等への被害を抑制するため、捕獲等の対策を強化していく必要があります。	鳥獣被害防止対策の推進
			・近年の気候変動による自然災害が激化、頻発化しており、農地やため池等の施設において多大な被害が発生しています。災害があっても農業生産活動が継続的に行えるよう、農地防災への取組みが必要です。	農地防災の推進

第5次基本計画 現状と課題・施策展開項目（一覧表）

政策分野	目指すまちの姿	施策	現状と課題	施策の展開
交流・観光	3 歴史や文化に彩られた魅力があふれている	(1)地域資源の魅力向上	・本市独自の歴史や文化、ものづくり、祭り・イベントといった多様な観光資源がある一方で、その魅力が十分に知られていません。観光資源の歴史的な背景や物語を伝え、より深い体験を提供する取組みが必要となっています。	観光資源の磨き上げ
			・高岡古城公園は、四季折々の美しい自然が楽しめる都市公園であると共に、高岡城築城当時の遺構を残す国指定史跡です。しかし、植生の密生や生育不良による眺望の阻害、堀への土砂堆積などによる史跡の保存への影響が課題となっています。	高岡城跡の魅力向上
			・市内には、高岡城跡などの史跡や国宝の瑞龍寺や勝興寺に代表される歴史的建造物や歴史的町並みが残り、高岡御車山祭などの祭礼行事や伝統的な工芸技術など、有形無形の文化財が数多く受け継がれてきています。文化財を保護する担い手の減少や文化財が失われる恐れがあることから計画的に史跡、建造物などの文化財の修理・整備を行うとともに祭礼行事等に用いる用具の修理など保存継承活動への支援を行う必要があります。	文化財の保存・継承
			・地域の文化財や文化財同士の関係性など郷土の歴史文化を知り、理解を深めることはふるさと高岡に対する郷土愛が育まれ、地域の魅力づくりにつながります。 次世代の文化財の担い手となる子どもたちをはじめ、気軽に郷土の歴史文化に触れる機会を充実していく必要があります。	郷土学習機会の充実
			・古文書など調査が進んでいない分野もあり、また、市内には未だ発見されていない文献資料なども多く存在すると考えられることから、文化財や郷土の歴史に関する資料収集や調査を進めていく必要があります。	文化財の調査研究
		(2)歴史資産を活かした景観の創出	市内には、歴史的な町並みや建造物、伝統工芸、地域固有の祭礼などが一体となり、独自の風情を醸し出していますが、伝統産業従事者や祭礼の担い手不足が懸念されており、行政・事業者などが連携して町並みの保全や歴史的建造物の活用を進め、都市全体のイメージ向上に取り組む必要があります。	景観に調和したまちづくりの推進
			市内には、二上山や雨晴海岸など緑と水に恵まれた美しい自然があふれています。また、固有の歴史、伝統、文化などの優れた地域特性も受け継がれており、その魅力を活かした景観の保全と活用に取り組む必要があります。	自然景観の保全・活用
		(3)芸術・文化活動の推進	・芸術・文化活動は、世代を超えて楽しむことができ、人とのつながりを育み、暮らしの質や心の豊かさを高めます。しかし、伝統芸能、生活文化など、担い手が減少している分野もあります。地域に根差した芸術・文化活動の支援に加え、新たに参画する市民の裾野が広がるよう、子ども・若い世代をはじめとする幅広い世代が、芸術・文化活動に触れ、親しむ機会を増やすことが必要です。	地域に根差した芸術・文化の振興
			・本市には万葉故地としての万葉文化、伝統工芸などのものづくり文化、伝統芸能、華道や茶道などの生活文化、伝統的な町並みなど多様で豊かな文化があり、市民の手によって受け継がれています。しかしその魅力と価値はまだ十分に周知されているとは言えません。さらに多くの市民が高岡固有の文化に理解と愛着を深め、主体的に、継承や発信に関わっていくことが必要です。	文化資源に関する市民の理解促進
			・本市では、文化力を活かして産業・観光などの活性化を図るため、市民や企業、団体、学生等の連携に努めてきました。近年、全国的にも芸術・文化そのものの振興を起点としながら、まちづくり、観光、産業、福祉、国際交流等との連携強化により、様々な社会課題の解決につなげることが求められています。	分野を超えた連携の強化
	4 地域の魅力を活かした交流が拡大している	(1)戦略的な観光の推進	・個人旅行へのシフト、インバウンドの増加、体験コンテンツへのシフトなど、観光のニーズが大きく変化しています。本市が旅行先として選ばれる場所となるため、本市独自の歴史と文化など多様なニーズに対応するコンテンツの開発や、受入体制等の整備が求められています。	観光受入態勢の整備
			・新たな価値観の創出などにより観光趣向も多様化しており、ものづくりの文化を活かした産業観光の重要性が高まっています。「ものづくり」を活かした体験コンテンツの充実を図ることが重要となっています。	産業観光の推進
			・本市への観光客の滞在時間や観光消費額は、伸び悩んでいる現状があります。近隣地域との連携をより強化し、地域の多様な観光資源を活かした周遊ルートの構築や観光商品の提供、魅力の発信に総合的に取り組む必要があります。	広域観光の推進
		(2)関係人口・交流人口の拡大	・人口減少が進行する中、高岡市に居住していなくても本市に継続的に関わりを持ち、多様な形で地域を支える「関係人口」の増加に取り組んできました。地域活力の維持につながるアクティブな関係人口の拡大や、地域との円滑な連携が求められています。	関係人口の創出・拡大
			・高岡市への移住・定住を希望する方を増やすため、地域の魅力発信や相談体制の充実に取り組んでいます。移住や定住の一層の促進に向け、子育て、雇用、住宅など、総合的な施策に取り組む必要があります。	移住・定住の促進
			・歴史文化・産業・自然といった高岡市の特長を活かし、国内外との多様な交流活動が行われています。多様な交流を一層促進し、地域の活性化につなげることが求められています。	多様な交流活動の促進
		(3)国内外に向けた発信力の強化	・高岡市の魅力を国内外に伝えるため、様々なメディアや情報化社会に対応した情報発信に努めています。更なる誘客促進や関係人口の拡大を図るため、市民一人ひとりが発信源となる意識や機運の醸成、戦略的な情報発信に取り組む必要があります。	シティプロモーションの強化
			・日本を訪れる外国人旅行者数は過去最高を記録しているものの、本市における観光需要拡大の効果は限定的となっています。本市への観光誘客をさらに加速させるため、様々なメディアを活用した、より効果的な情報発信を継続的に実施する必要があります。	情報発信の強化